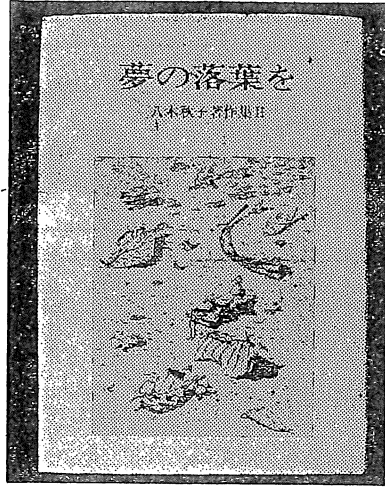


1979.2.28



# 故郷の思い出づる

木曾福島町出身の八木秋子さん

## 自伝的短編集の出版

木曾福島町出身の八木秋子さん（二十八歳）生まれ。松本市立女子のふるさとにまつわる著作を集めた『夢の落葉を』八木秋子著作集の母となったが、家を捨てて離れ、II「写真」が、JCA出版から発行された。

の編集に参加、アナーキズムの姿、昭氏の協力で発行しつづけてい勢を打ち出して華々しく活躍した。また、「農村青年社」運動に加わり、県下を中心に講演などの活動を展開するが、そのために逮捕、投獄されるといふ体験をしてきた。戦後は、引き揚げ者などを収容する母子寮の寮母なをしてきたが、八十三歳になった現在は、都立の養育院に入寮して、個人通信「あるはな」を、相京範

正にかけての木曾福島が舞台。Iでは、祭りや風俗、貧しい山の人々の暮らしが描き、IIは、子供時代の著者とその一族について、自伝ともいえる物語が、それぞれ短編を寄せ集める形で編集されている。

や女の生き方などと共に、その思想の原点に触れるよつて興味深い。なお、『夢の落葉を』は、A5判、三三四頁、一、八〇〇円。JCA出版（千代田区神田神保町一四二、日東ビル1F）刊。

八木さんは、一八九五年（明治

は、「女人芸術」や「婦人戦線」

内容は三部構成で、明治から大